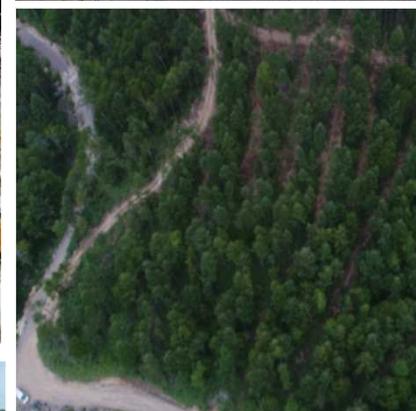
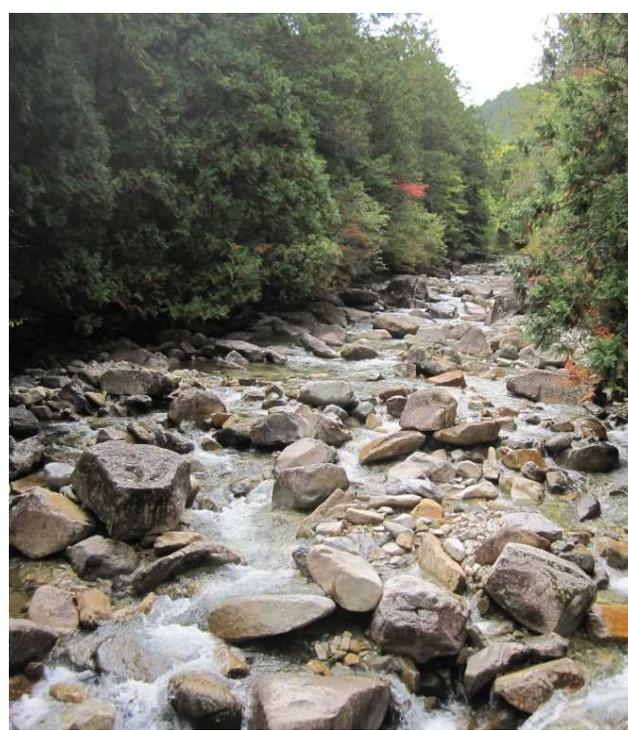


# 令和5年度 木曽森林管理署 事業概要



国民の森林・国有林

林野庁 中部森林管理局 木曽森林管理署

住所：長野県木曽郡上松町正島町1-4-1

TEL : 0264-52-2083

Email : c\_kiso@maff.go.jp

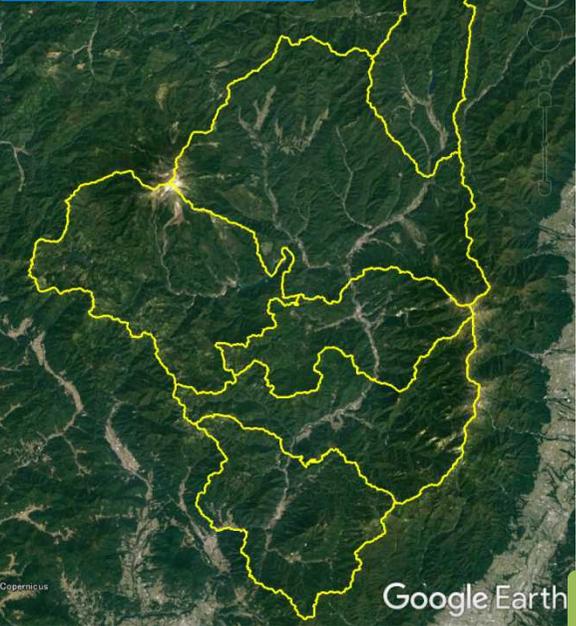
# 木曽谷森林計画区の森林・林業の概要①



## 木曽路はすべて山の中

木曽谷流域の面積 155千Ha  
 木曽谷の森林面積 144千Ha  
 (内国有林 89千Ha)  
 森林率 93%  
 木曽川を挟み御岳山と木曽駒ヶ岳の  
 三千m級の山に囲まれる。

## 森林の分布



### 木曽郡の林業事業体就業者数

**林業労働者数 155人**  
 ※2020年農林業センサス・長野県木曽郡各町村  
 【林業経営体 林業労働力 経営者・役員+雇用労働  
 年間150日以上林業に従事した者】

## 木曽谷森林計画区の森林・林業の概要②

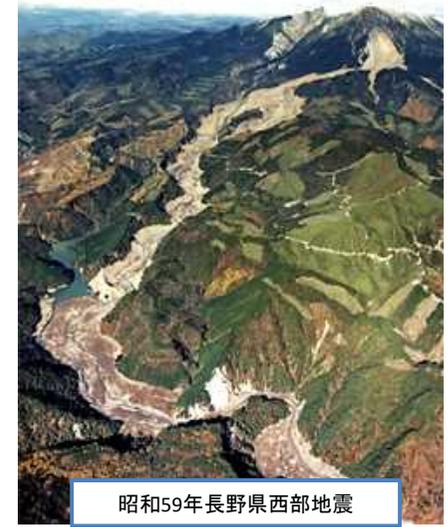
### 森林の特徴と自然的背景

- ・当流域の森林の多くが山岳地帯にあり地形が急峻、木曽川左岸及び南部は脆弱な地質に加え降水量も多いことから、崩壊が発生しやすいうえ、山地と集落が非常に接近している。
- ・近年は平成26年の御嶽山噴火災害、令和3年5月8日の豪雨災害や地震等自然災害が多発。



平成26年御嶽山噴火災害

木曽谷流域は降水量が多く  
地質が脆弱



昭和59年長野県西部地震

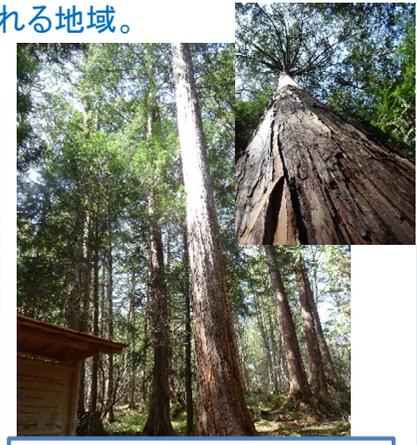
- ・木曽川水系は発電用水とともに、中京圏の重要な水源地帯となっており、公益的機能が高度に要求される地域。
- ・流域内二つの自然公園や、森林浴発祥の地である赤沢自然休養林等、森林レクリエーション資源も豊富。



当地域は中京圏の重要な水源地(味噌川ダム)



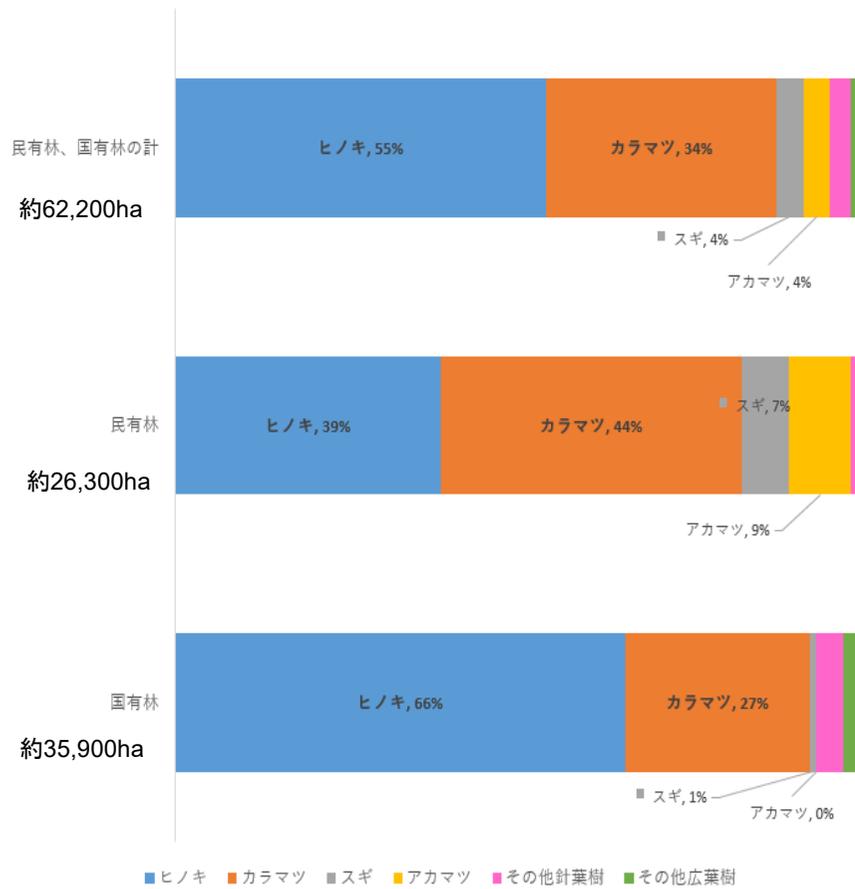
豊で優れた自然景観が地域の観光  
資源となっている



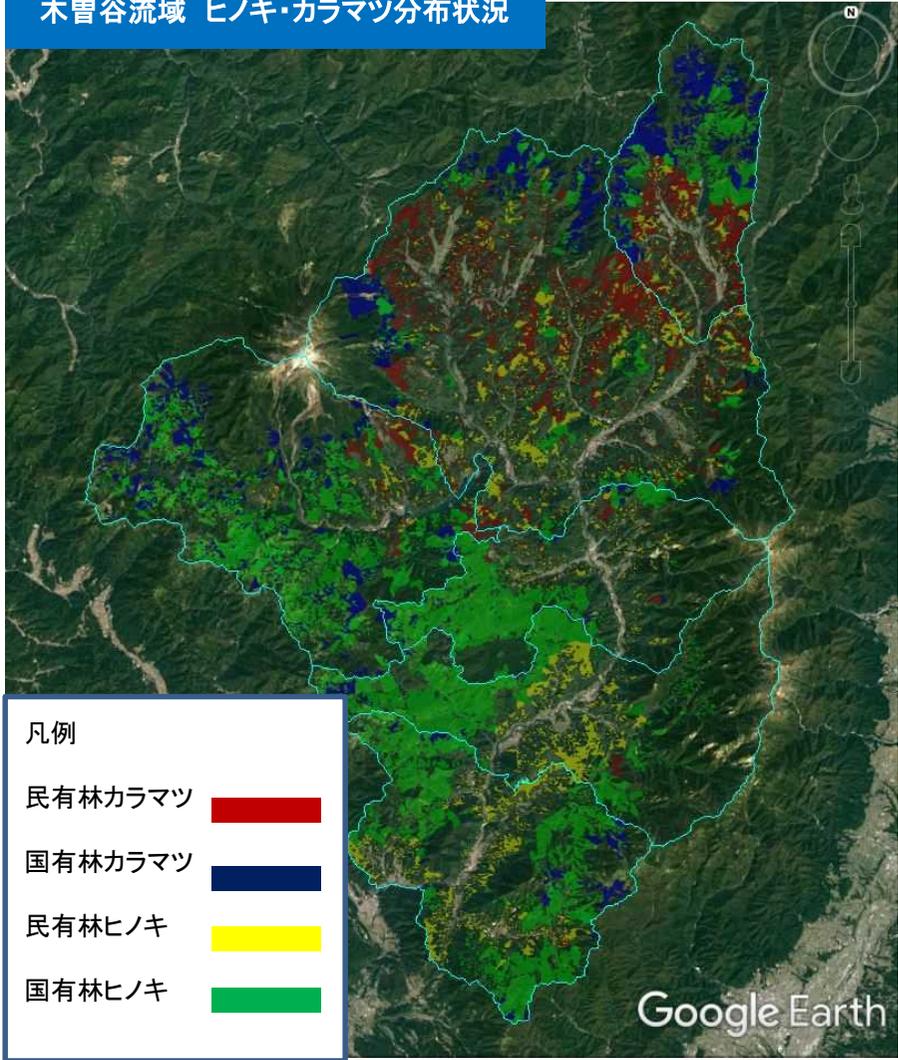
赤沢自然休養林 木曽ヒノキ 大樹

# 木曽谷森林計画区の森林・林業の概要③

## 人工林の主要樹種別割合



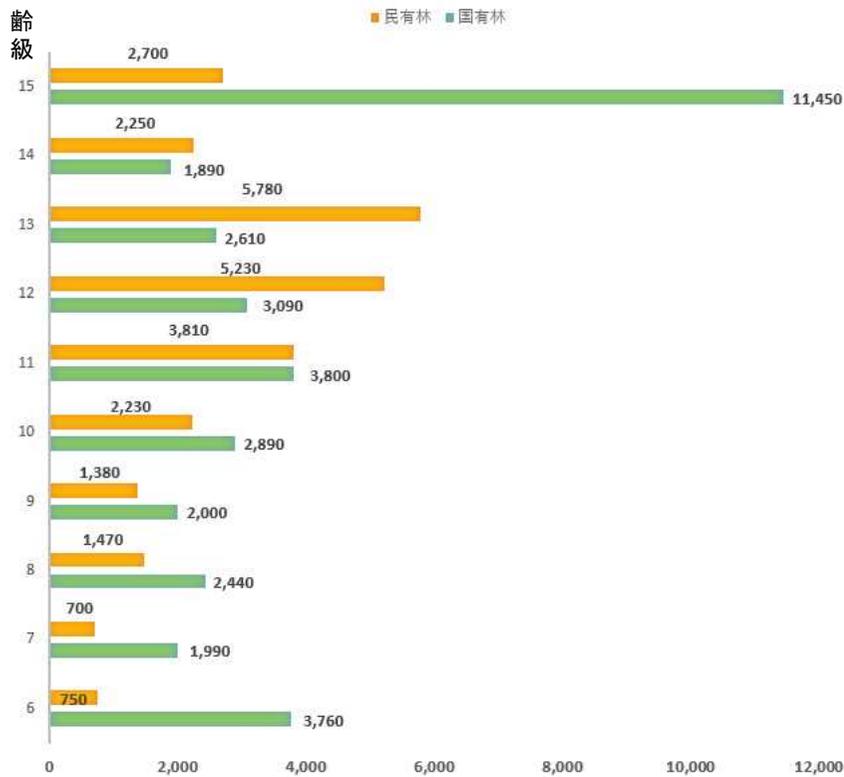
## 木曽谷流域 ヒノキ・カラマツ分布状況



# 木曽谷森林計画区の森林・林業の概要④

## 人工林の齢級構成

単位: ha (10ha単位に調整)



### 齢級について

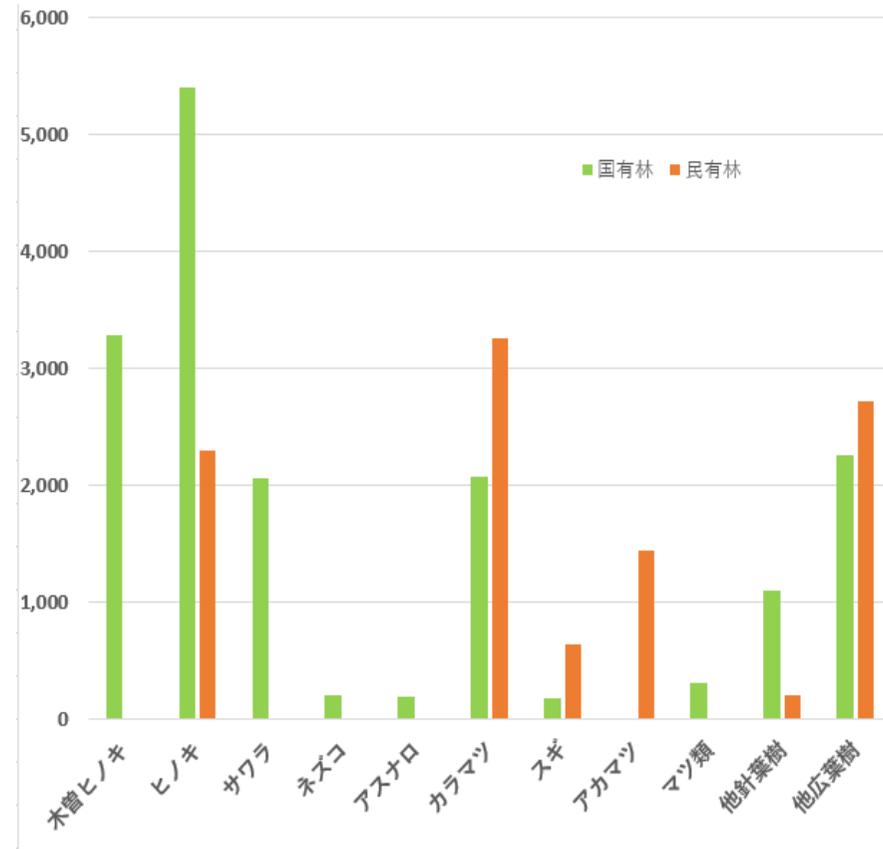
林業で森林の年齢を5年を1齢級として計算する方法です。

6齢級以下は30年生以下で、15齢級以上は75年生以上の人工林になります。

利用伐期齢50年は10齢級以上となります。(50年÷5年=10)

## 主要樹種別蓄積量

単位: 千m<sup>3</sup>



# 木曽森林管理署管内の国有林の特徴と管理経営の基本的な考え方

## 木曽谷流域の国有林の特徴

木曽谷流域は長野県南西部に位置し、木曽川を挟み御岳山と木曽駒ヶ岳の三千m級の山に囲まれ面積は約15万5千ha森林面積は約14万4千ha(対区域面積比93%)、このうち国有林野面積は約8万9千ha(対区域面積比58%)となっています。

流域は急峻な地形のなか脆弱な地質が広がり、森林の有する山地災害防止機能の発揮が求められ、また、木曽川の源流部で中京圏の生活用水や水力発電の重要な水源であり、水源かんよう機能の維持増進など、公益的機能が高度に求められる流域です。

管内の森林は、日本三大美林のひとつ木曽ヒノキをはじめとする天然林や溪谷が四季折々に優れた自然景観を創り出し、森林浴発祥の地である赤沢自然休養林をはじめ、森林セラピーのほか自然探勝、森林環境教育、学術研究等の場として多くの方々に利用されています。

また、流域内の国有林は、ヒノキ、カラマツを主体とする人工林が約40%、天然林が約50%、その他10%となっており、人工林のうち半分以上が利用期(50年生以上)に達しています。

木曽ヒノキ、人工林のヒノキをはじめ当地域で生育する良質な木材は日本の歴史的木造建築物の補修資材や伝統工芸品の原材料に使用され、高品質な木材の産地として知られています。

## 当流域の特徴に即した管理経営を進めます

### 1 公益重視の管理経営の一層の推進

当流域で求められる、森林の公益的機能を発揮するため、立地や林分の状況などに応じた適切かつ効率的な施業を推進し、森林吸収源対策として必要な間伐面積の確保、主伐及びその後の計画的かつ効率的な更新に努めるとともに、効率的な施業の実施に必要な路網の整備、治山事業の効果的な実施と既存施設の長寿命化対策を推進します。また、地域と一体となった野生鳥獣被害対策や生物多様性の保全などをつうじ、多様で健全な森林づくりを進め、地域に求められる森林づくりのため、地域住民との対話や民有林関係者との連携を一層進めていきます。

### 2 森林・林業再生に向けた貢献

当地域の森林・林業の再生に向け、国有林の組織、技術力、資源を活用し、立地や林分の状況などに応じた低コストで効率的な作業システムの提案や先駆的な実行と普及に取り組みます。また、民有林と連携した施業の実施、国有林のフィールドや技術を活用した森林・林業技術者の育成や、先駆的な技術・手法の事業レベルでの試行、生産性向上の実現に向けた取組や、林産物の安定供給と高品質材のブランド化や利用普及による木材需要の拡大、造林・保育の低コスト化等に積極的に取り組みます。

### 3 国民の森林としての管理経営

国民共通の財産である国有林野を「国民の森林」として位置付け、森林の総合利用、森林・林業に関する情報提供や普及・啓発に努めるとともに、多様で豊かな自然環境や森林・林業に関する知識と経験を備えた人材等を活用しつつ、森林環境教育の推進、森林とのふれあいや国民参加の森林づくり等、国民・地域住民の森林に対する要望に応え国有林野の活用を地域の振興につなげていきます。

# 1 公益重視の管理経営の一層の推進するための主要な取り組み

## ① 計画的な森林整備の推進

※事業量について令和5年度は当初予定 令和3・4年度は実績

森林の多面的機能を持続的に発揮させるため、各計画等に基づき、適切かつ効率的な施業を推進、必要な間伐の実施、主伐及びその後の計画的かつ効率的な更新、効率的な施業の実施に必要な路網の整備、既存施設の長寿命化対策を進めます。

### 森林整備の主な事業量

年度	植付	下刈	除伐	間伐
3	5.4	21.5	83.0	242.3
4	35.4	39.3	38.3	295.0
5	6.2	36.1	28.1	227.2

(単位:ha)

### 路網整備の主な事業量

年度	林業専用道	森林作業道
3	460	9,893
4	280	10,139
5	260	3,381

(単位:m)



公益的機能を発揮するため  
健全な森林づくりを推進【上松町】



下刈り後の状況【木祖村】



効率的な施業に必要な路  
網整備【木曾町】

## ② 治山対策の推進

近年の地震・集中豪雨等による山地災害の発生や、地球温暖化の影響等により山地災害発生リスクが一層高まると予測されています。自然災害に対する山地防災力の強化に向け、荒廃山地の復旧整備や保安林の水土保持機能の強化等により、地域の安全・安心を確保するため事前防災・減災対策を推進するなど、国土強靱化対策や既存施設の長寿命化対策を推進します。

### 治山事業の主な事業量

年度	溪間工(基)	山腹工(ha)
3	9.0	0.8
4	—	0.4
5	5.0	1.5



御嶽山噴火災害対策  
治山ダム【王滝村】



荒廃山腹の復旧対策  
山腹工【木祖村】



流木対策  
スリットダム【木曾町】

### ③生物多様性保全の推進

森林生態系の生物多様性を保全するため溪流沿い等の森林の保全、「保護林」の保護・管理等の推進、巡視活動を行うとともに、高山植物等保護活動や自然再生事業を積極的に実施します。



多様性が保全された豊かな溪流沿いの森林【木祖村】

外来種の除去を地域住民と実施【上松町】



### 「木曾悠久の森」と木曾生物群集保護林

「木曾悠久の森」はヒノキ、サワラ等を主体とする温帯性針葉樹林を厳格に保存するとともに、保存・復元を目的としてH28年に木曾生物群集保護林に設定しました。



貴重な木曾ヒノキ林【上松町】

### ④野生鳥獣被害対策の推進

野生鳥獣の被害対策については地域共通の課題であり、長野県木曾地域振興局、各町村、各猟友会等と連携を進めています。ニホンジカは生息数の増加とともに生息範囲を拡大させていることから、当年度もセンサーカメラにより広域的な生息状況の把握・分析を実施し、関係機関との情報共有、猟友会への捕獲委託、また、猟友会と「国有林野内におけるニホンジカ等の捕獲に関する協定」の締結によりくりワナの貸出や車両の入林により国有林野内捕獲を進めています。



捕獲をメールで通報

ニホンジカ被害防止のため地元猟友会に捕獲業務を委託



センサーカメラ観測地点(ニホンジカ)



センサーカメラ立木設置



センサーカメラで撮影されたニホンジカ【上松町】

## ⑤災害時の県市町村との連携1

平成26年広島県の豪雨災害以降台風に関わらず、強い低気圧の停滞等に起因する局地的豪雨の発生による災害も増えています。木曾谷においては令和3年は5月、8月の豪雨災害がありました。

令和3年8月は、王滝村御岳山で678.5ミリ(降り始めから総降水量)を記録した豪雨災害で、土砂流出による国道の通行止め、管内全町村の国有林では林道の路体流出、路体崩落、路肩決壊、土砂崩落など大きく8カ所、それ以外で50箇所以上が確認される甚大な被害をもたらしました。

このような災害が発生した場合は、署内に災害対策本部を設置するとともに、各町村に職員を派遣し民有林被害の情報収集を行い、必要に応じて支援を実施します。

また、中部森林管理局がチャーターしたヘリコプターで空から木曾地域振興局等と災害に関する合同調査等も実施します。

### 木曾森林管理署の対応

- ①災害対策本部の設置
- ②各町村へ職員を派遣し情報収集
- ③国有林がチャーターしたヘリコプターで県等と災害合同調査
- ④管内国有林を11班態勢で災害パトロール
- ⑤造林・生産等各事業の被害確認と調整



R3.5 トヤノ沢【上松町】



R3.8 国道19号【上松町下河原】



R3.8 合同ヘリコプター調査  
木曾森林管理署管内



R3.8小川入国有林灰沢下柿沢林道



R3.8小木曾1101ろ 笹尾沢林道



R3.8小木曾1084い 笹尾沢林道



R3.8 熊沢国有林小樽林道



R3.8 末川国有林髭沢林道



R3.8 木曾町道 カベ沢付近



R3.8 木祖村県道奈川木祖線



R3.8 上松町駒ヶ岳山麓線



R3.8 赤沢自然休養林木橋

## ⑤災害時の県市町村との連携2

令和3年8月災害では王滝村道38号線(王滝三浦林道)が道路陥没により孤立集落が発生したため、王滝村より、村道38号線(王滝三浦林道)の応急復旧まで、御岳御厩野林道等を迂回路として活用したい要望があったことから、迂回路として10月末まで地域住民等が通行できるように協力しました。

また、陥没した箇所は、陥没の復旧を長野県が行い、復旧後の舗装を木曾森林管理署が行う等、令和4年度は災害復旧に努めてまいります。近年災害が頻発する傾向にあることから、令和3年10月に木曾森林管理署と木祖村・木曾町・上松町・王滝村と「山地災害発生時等の連携に関する協定書」の締結を行い、災害が発生又は発生が危惧される場合に迅速かつ円滑に対応できることとしました。今後もこれまでの経験を踏まえ、県・町村との連携により迅速に活動できる体制を深化させるとともに、地域へ貢献する国有林を進めていくこととします。

### 王滝村道 38号線での連携

- ①国、県、村、3者による協議の実施
- ②御岳御厩野林道等を緊急修繕し、迂回路として通行
- ③村道38号線(王滝三浦林道)の復旧  
(護岸工事、流路工作、住民等対応、道路舗装、国有地処分)



村道38号線の王滝川増水による陥没



御岳御厩野林道等の緊急修繕



森林官車両を先導に住民一時帰宅(迂回路御岳御厩野林道等)

### 山地災害発生時等の連携に関する協定書

- ①連絡員(リエゾン)の派遣
- ②国有林のヘリコプターによる調査を県・町村と合同調査の呼びかけ
- ③町村の現地調査へ職員の派遣
- ④救助、物資輸送に国有林道の活用
- ⑤緊急物資の提供
- ⑥災害廃棄物の一時仮置き場の提供



山地災害発生時等の連携に関する協定締結

## 2 森林・林業の再生に向けた取組

### ①事業の低コスト化・生産性向上の推進

伐採から再造林・保育に至る収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」の実現に向けて、伐採・造林一貫作業システムの推進、下刈り回数削減、民有林への普及を図るための低コストモデルの実証や、生産性向上実現プログラム等を通じ素材生産の生産性向上を図るとともに、末木枝条等の未利用材(D材)の搬出と販売促進等を通じた造林コストの縮減を進めます。



ドローンによる苗木の運搬



架線集材

現場状況に応じた多様な集材方法



スイングャーダー



民・国参加の現地検討会



雑草と植林木の成長状況により回数を減らす下刈り

### ②民有林との連携の推進

流域全体が対象の「木曾谷流域森林整備推進協定」(令和5年4月更新)は、当流域の森林・林業関係者により団地ごと実施計画が策定されました。森林経営管理制度を踏まえ、民有林と国有林が連携した間伐等の森林整備や、隣接する民有林等と一体となった路網の整備をすすめ、林業事業者や技術者の育成・強化に取り組んでいきます。また、国有林の中間土場を活用し民有林と協調したシステム販売を推進するほか、事業連携のための森林情報の共有、林業事業者の計画的な事業実行等を促進するための事業予定量の情報提供等を実施します。

#### ●安定供給システム販売とは

並材・低質材を市場や製材工場等と協定を結び定価で販売

供給者・・・協定量を安定的に出材

需用者・・・協定価格で買い取り

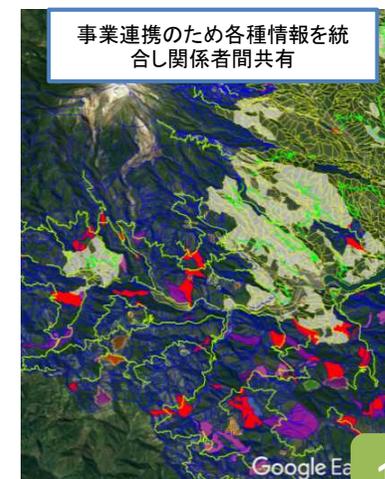
中間土場を活用し民有林とのシステム販売を推進【木祖村】



民有林

国有林

民有林林道を国有林林道に直接接続



事業連携のため各種情報を統合し関係者間共有

### ③木材の安定供給

※事業量は令和5年度は当初予定 令和3・4年度は実績

国産材を主な原料とする大型の製材工場や木質バイオマス発電施設などが次々と稼働を開始する中、地域の需給動向や需要の変化を把握しつつ、素材生産は立地や林分の状況に応じ適切かつ効率的な施業を推進し、継続的・計画的に林産物を共有します。民有林と一体となった木材の安定供給システム販売を実施し、木材の安定供給や有利販売に取り組みます。

#### 伐採量

年度	主伐	間伐	計
3	18.4	51.7	70.1
4	7.0	56.8	63.8
5	31.6	76.0	107.6

(単位:千m3)

#### 販売量

年度	素材	立木販売	D材
3	72.3	2.7	0.9
4	67.5	-	0.2
5	68.9	41.1	0.1

素材は南木曽支署生産分含む

(単位:千m3)

#### 土場活用委託販売



#### 委託による有利販売【東海木材・愛知県】



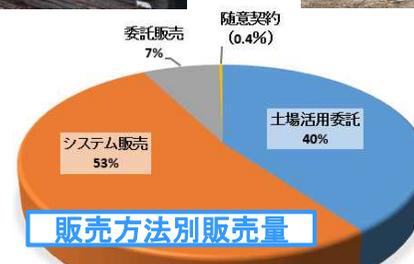
#### D材の販売



#### システム販売

年度	数量	うち民有林材
3	30.5	1.5
4	34.2	2.7
5	37.3	1.2

(単位:千m3)



### ④木材利用の拡大【A材需要拡大】

「信州プレミアムカラマツ」及びカラマツA材については、引き続き品質・性能の明確化について長野県等と連携して取り組み、ブランド力の向上や需要の拡大等を推進し、「〇高〇国木曽ひのき」については、木曽ヒノキの代替材として高品質な製材用品を継続して出品していくため、原木需要者のニーズの把握に努め、生産現場での採材・仕分けに反映させ、委託販売等により有利販売に努めます。木材利用を推進するため、住宅産業へ地域材利用の働きかけをします。

また大径長尺材などを公共建築物、文化財の修復や伝統工芸などの資材として、木の文化を守るために供給していきます。



委託市に出品された高国木曽ひのき

#### 大型木造公共建築物への提供 —地域材、特殊用途材の利用—



木曽町おもちゃ美術館  
(令和4年11月開館)



上松町庁舎町民ホール  
(令和3年5月開庁)

### 3 国民の森としての経営管理

#### ① 森林を活用した観光資源の創出

保健、文化、教育の場である自然休養林等のレクリエーションの森について、観光資源として活用が期待される箇所を、外国人利用者也意識した情報発信や重点的な環境整備等を実施し、より多くの方々に利用していただくための情報発信を行い、地域の振興に寄与するための取組を地元関係者と連携しながら実施します。特に優れた自然景観を作り出す森林については、昨年度実施したGoogleストリートビューを引き続き実施し、観光需要の拡大につなげていきます。



Googleストリートビューでレクリエーションの森を撮影公開



HPで森林や林業に関する歴史や見どころを紹介

森林の利用について他国の研究者が当地域を視察



#### ② 森林を活用した森林教育や体験林業

国有林を利用した森林教室・体験林業を実施、支援します。農山村などの立地や地域の要請に応じた森林環境教育の推進を図り、森林環境教育に適したフィールドや学習教材の整備を実施、これを通して地域振興にもつなげていきます。

レクリエーションの森を適切に維持・管理するため、令和4年4月に王滝村と「レクリエーションの森」における維持管理に関する協定書」を結びました。これにより、木道や木橋の維持管理及び環境整備等を円滑に行う体制を整えています。



森林環境教育に適したフィールドの整備の推進 (R4.4協定対象施設(王滝村))

多くの学校が森林教室や体験林業を管内で実施



#### ③ 国民参加の森林づくりの推進

森林づくりや社会貢献活動等の要望に応えるため、『国民参加の森林づくり』のためのフィールドを提供。体験林業活動などへの技術支援も行います。



国民の森林づくりのためのフィールドを提供

森林づくりのための技術指導に職員を派遣



# 参考資料

## 木曽郡の森林面積と国有林の割合

単位 面積:ha 比率:% 人口:人

町村名	区域面積	森 林 面 積				森林比率	人口 R4.4又は R4.3公表 値	
		総数	国有林(林野庁所管)					民有林
			国有林	官行造林	計			
木祖村	14,050	12,808	7,830	—	7,830	4,974	91	2,609
木曽町	47,603	43,011	12,770	—	12,770	30,241	90	10,111
王滝村	31,082	29,752	25,887	—	25,887	3,865	96	676
上松町	16,842	16,083	10,816	—	10,816	5,267	95	4,027
大桑村	23,447	22,461	17,571	—	17,571	4,891	96	3,358
南木曽町	21,593	20,297	14,149	111	14,260	6,037	94	3,821
計	154,617	144,408	89,023	111	89,134	55,274	93	24,602

(千ha)

	人工林	天然林	その他	計
全体	62.5	72.6	9.3	144.4
うち国有林	36.0	44.6	8.6	89.1
割合	58%	61%	92%	62%

注 数値は木曽谷国有林の地域別の森林計画書(計画期間:令和4年4月1日~令和14年3月31日)中部森林管理局より引用  
人口は各町村HPより引用

## 気候

観測地	気温(°C)			年間降雨量(mm)	最高積雪量(cm)
	最高	最低	平均		
木曽福島	36.1	-14.6	11.4	2,052	—
開田高原	32.2	-21.0	7.9	2,322	71
御嶽山	—	—	—	4,073	—
須原	—	—	—	2,256	—
南木曽	35.7	-12.8	11.9	2,513	—